

I 調査の概要

1. 調査の方法と内容

各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校担当部署に、所管する高等学校の海外修学旅行並びに修学旅行以外の海外研修の実施状況等について調査を依頼し、以下のとおりまとめた。

なお、東京都・福岡県の私立及び兵庫県の公私立の実施状況については本協会の独自調査によった。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 2019(令和元)年5月1日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各都道府県私立学校所管部署
- (3) 調査内容
 - イ. 2018(平成30)年度海外修学旅行の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、訪問国
 - ロ. 2018(平成30)年度海外研修の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、研修先国、研修内容
 - ハ. 2018(平成30)年度国内航空機利用修学旅行の実施状況
 - ニ. 2018(平成30)年度国内修学旅行方面別実施状況
 - ホ. 2018(平成30)年度訪日教育旅行受入状況
 - ヘ. 2019(平成31・令和元)年度修学旅行の実施基準

2. 集計及び区分け等

- データは各都道府県並びに政令指定都市教育委員会、各道府県私立学校所管部署からのデータを集計し、一部本協会の調査データを加えた。
- 海外修学旅行・海外研修とも都道府県の実施校数・参加生徒数は出国数をベースとし、クラス別・班別及び課程別での実施を件数表示とした。また複数方面にまたがる場合、国別集計では延べ数でカウントした。
- 訪問国は、旅行という観点から大陸区分によったが、グアム・サイパン島は北アメリカに、パラオ・マーシャル諸島はオセアニアに区分した。
- 海外研修は学校が主催する3ヶ月未満の語学研修、ホームステイ、教科の特性を生かした実習・研修、姉妹校交流等をまとめ、研修内容の区分は本協会独自の仕訳によった。
- 国内方面別実施状況は、クラス別・班別及び課程別での実施や複数方面にまたがる場合も1校として集計のため、設置校数・生徒数と一致しない。
中学校は県によってデータ把握が困難なため、参考数値として集計した。
- 訪日教育旅行受入状況については、一部地域を除き、各都道府県教育委員会で把握されているものを掲載した。

3. 2018(平成30)年度全国高等学校の概要

- 学校数は4,897校(本校4,809校、分校88校)で、前年度より10校減少(本校11減、分校1増)している。
 - ・ 公立の学校数は3,559校で、前年度より12校減少(本校13減、分校1増)している。
 - ・ 国立の学校数は15校で、前年度と同数である。
 - ・ 私立の学校数は1,323校で、前年度より2校増加している。
 生徒数は約324万人で前年度より約4万5千人減少している。(中等教育学校を含むと約326万7千人)
- 中等教育学校数は53校(国立4校、公立31校、私立18校)で、前年度と同数である。
- 修学旅行対象学年(全日制2年、定時制3年、専科、別科、中等教育後期課程)の生徒数は、約108万4千人で前年度より約1万1千人減少している。

(資料：平成30年度文部科学省学校基本調査)

II 調査結果の概要

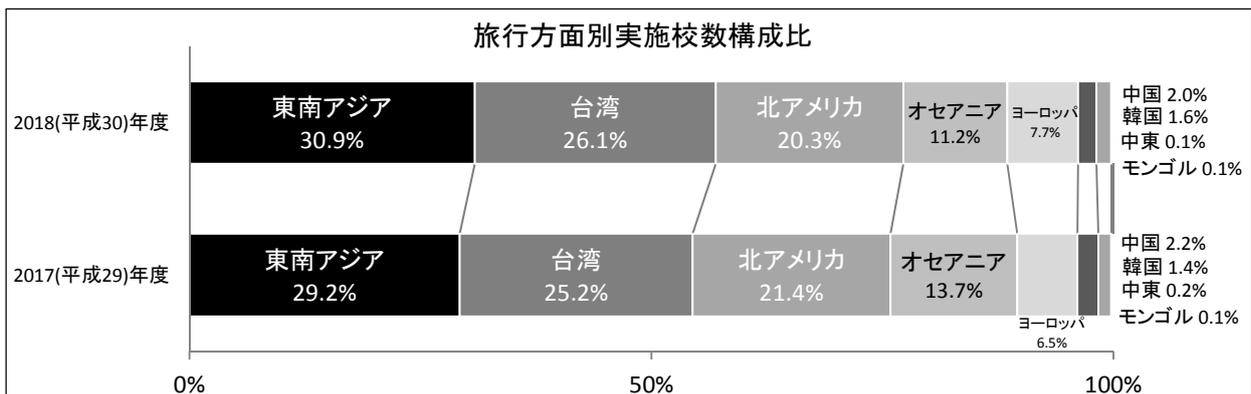
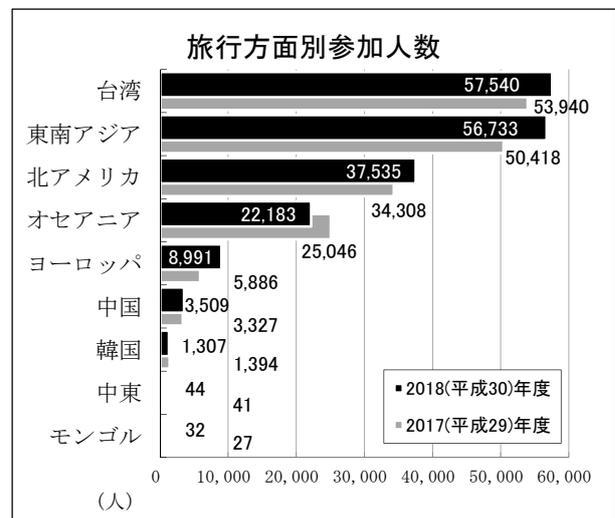
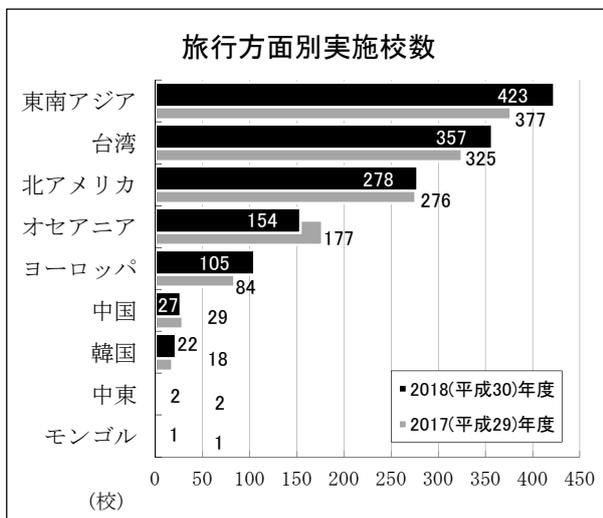
1. 2018（平成30）年度 海外修学旅行の実施状況

(1) 全国の動向

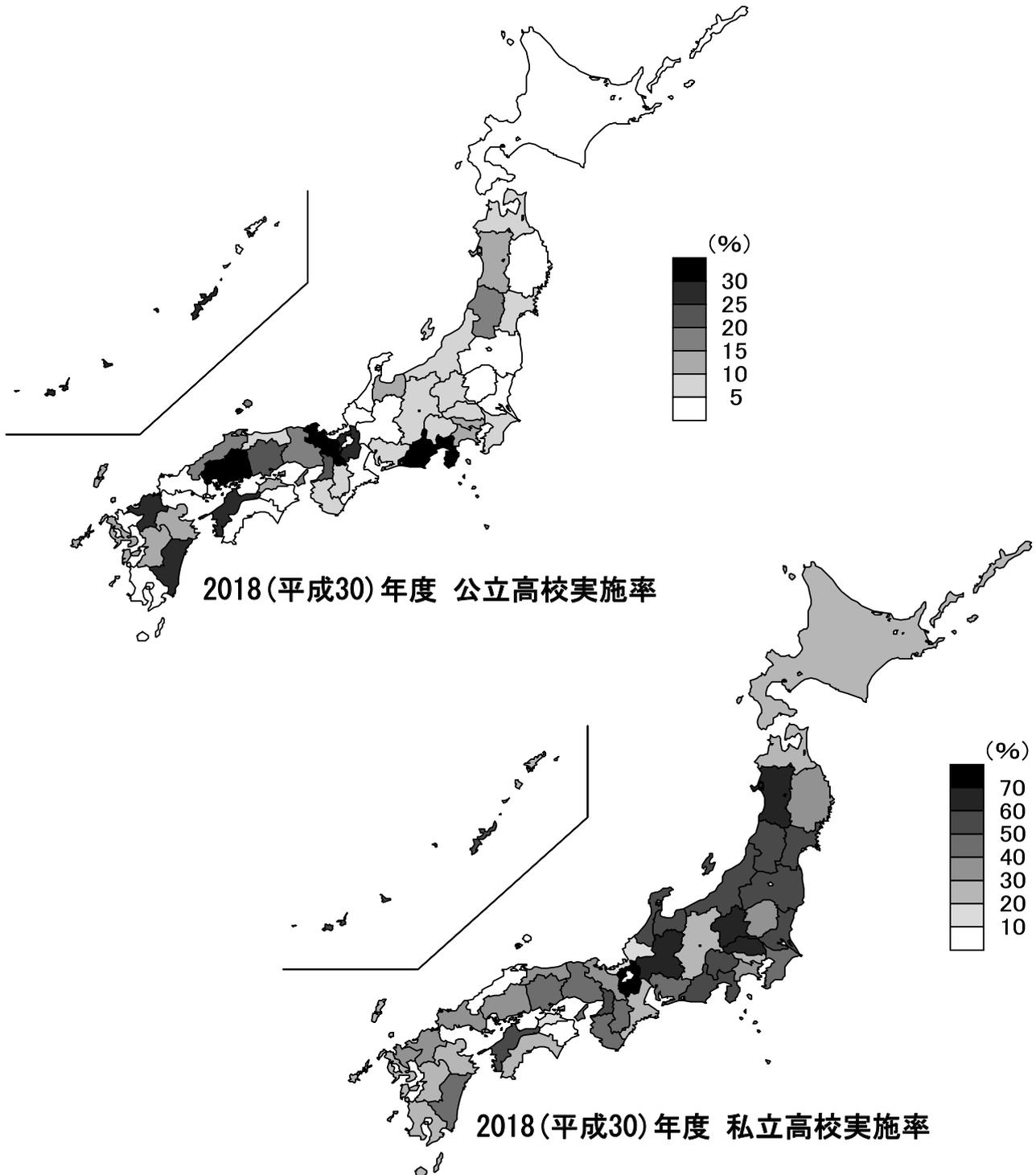
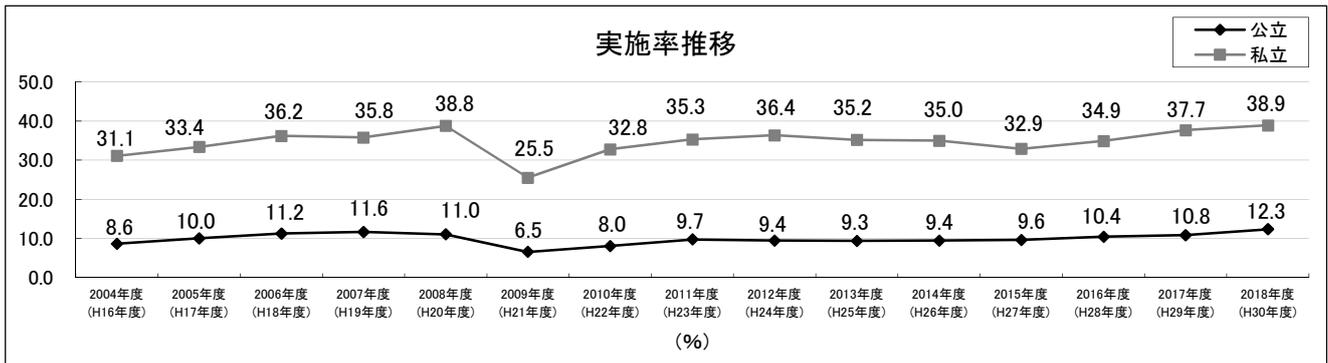
- 実施校数、旅行件数、参加生徒数全てにおいて昨年度を上回った。3年連続。（67校56件12,468人増）
全国で962校（公立440校、私立522校）が実施し、168,881人（公立75,052人、私立93,829人）の生徒が参加した。公立高校では12.3%、私立高校では38.9%の実施率であった。旅行件数は、1,264件（公立472件、私立792件）にのぼる。全国で1,000校の実施も近い将来予想される。（実施率約20%）
- 公私立共に、海外修学旅行は増加傾向にある。グローバル化の進む中、世界基準に対応できる人材の育成は学校教育の中にも求められており、「国際理解教育」の一環として、高校生という若い時期に修学旅行で海外を経験する意義を重要と捉え、取り組みを始める学校が増えている。
- 旅行先（延べ数）では、40ヶ国・地域に1,369校187,874人が訪問した。
台湾は、357校57,540人。昨年度から32校3,600人増。平成26年度から5年連続訪問国第1位である。修学旅行に求められる、安全性（比較的治安がよく、親日的）、経済性（比較的安価）、教育性（学校交流の受入体制）の3要素を備えた訪問国として人気の高さがうかがえる。
また、昨年度、北朝鮮のミサイル攻撃示唆を受け、大幅に減少したグアムは（平成29年度：19校3,005人）、復調の兆しを見せ、大幅減になる前（平成28年度：102校16,056人）の半数強まで戻った。（58校8,614人）
東南アジア、北アメリカ、ヨーロッパなど、殆どの地域で前年を超える数値となったが、オセアニア（オーストラリア、ニュージーランド）のみ私立学校を中心に前年を割った。

① 年度別実施状況

区分	計			公立			私立		
	実施校数	旅行件数	参加生徒数	実施校数	旅行件数	参加生徒数	実施校数	旅行件数	参加生徒数
2016(平成28)年度	842	1,107	145,944	375	406	63,065	467	701	82,879
2017(平成29)年度	895	1,208	156,413	390	419	67,576	505	789	88,837
2018(平成30)年度	962	1,264	168,881	440	472	75,052	522	792	93,829



※グラフは延べ数を基に作成。



② 公私立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域

国・地域	年度	2016(平成28)年度			2017(平成29)年度			2018(平成30)年度		
		都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数
台湾		42	262	41,878	43	325	53,940	43	357	57,540
シンガポール		38	142	19,286	40	184	25,421	40	202	28,295
オーストラリア		34	127	18,254	34	150	21,305	35	126	19,430
マレーシア		32	100	14,864	32	113	15,850	32	123	17,143
ハワイ		30	78	11,435	31	95	13,131	32	93	12,531
グアム		29	102	16,056	9	19	3,005	17	58	8,614
アメリカ本土		26	67	8,611	27	84	8,843	26	73	8,388
カナダ		26	50	6,962	25	74	8,999	24	53	7,904
ベトナム		16	36	5,996	19	43	5,988	17	47	6,717
中国		17	28	3,398	21	29	3,327	18	27	3,509

②-1 公立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域

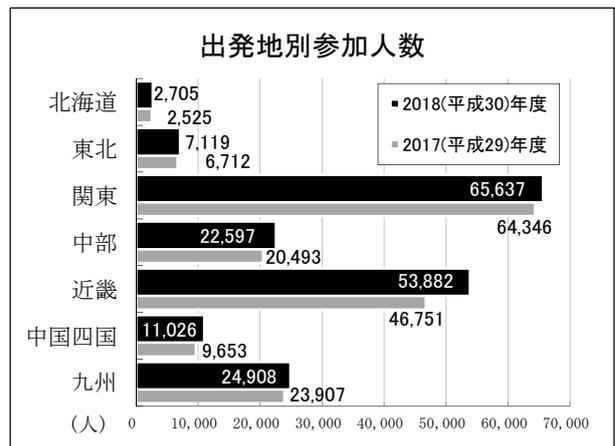
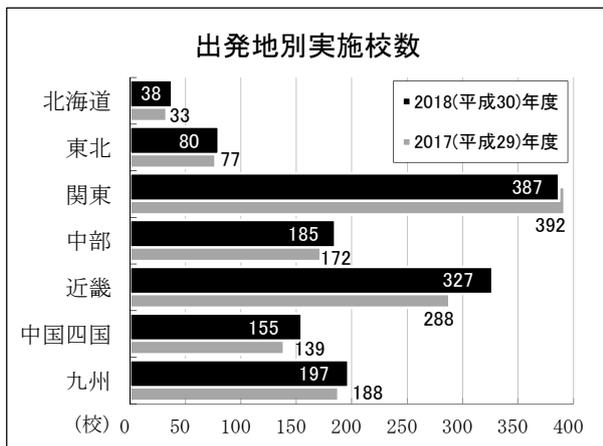
国・地域	年度	2016(平成28)年度			2017(平成29)年度			2018(平成30)年度		
		都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数
台湾		35	167	30,736	37	216	40,538	37	233	42,089
シンガポール		27	67	8,951	28	80	10,874	25	84	11,869
マレーシア		23	51	7,535	23	59	7,975	20	60	9,163
グアム		21	54	9,436	6	10	2,171	9	26	5,095
ベトナム		6	17	3,840	7	14	3,273	7	18	4,130
オーストラリア		13	20	2,233	13	23	2,794	14	27	2,867
ハワイ		8	18	2,810	9	18	2,846	10	18	2,864
中国		5	8	914	7	10	1,250	6	9	1,355
アメリカ本土		7	10	603	9	16	814	9	15	731
カナダ		5	5	542	8	9	876	7	7	602

②-2 私立高等学校の訪問国別生徒数 上位10ヶ国・地域

国・地域	年度	2016(平成28)年度			2017(平成29)年度			2018(平成30)年度		
		都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数	都道府県数	校数	人数
オーストラリア		29	107	16,021	29	127	18,511	28	99	16,563
シンガポール		31	75	10,335	32	104	14,547	33	118	16,426
台湾		35	95	11,142	37	109	13,402	37	124	15,451
ハワイ		28	60	8,625	30	77	10,285	30	75	9,667
マレーシア		24	49	7,329	24	54	7,875	28	63	7,980
アメリカ本土		24	57	8,008	25	68	8,029	23	58	7,657
カナダ		24	45	6,420	21	65	8,123	21	46	7,302
グアム		23	48	6,620	7	9	834	14	32	3,519
イギリス		16	24	2,978	10	15	1,496	11	17	2,780
ベトナム		12	19	2,156	16	29	2,715	14	29	2,587

(2) 都道府県別の動向

- 出発地別では、関東地方の校数減以外は、校数・参加人数ともに、すべての地方で前年を上回った。特に、近畿地方はシンガポール、マレーシア、グアムを中心に大幅に増加した。
都道府県別では、30都道府県で増、11県が減少。
(公立は、24都道府県で増加、10県で減少。私立は、28都道府県で増加、12県で減少。)※P18～20参照

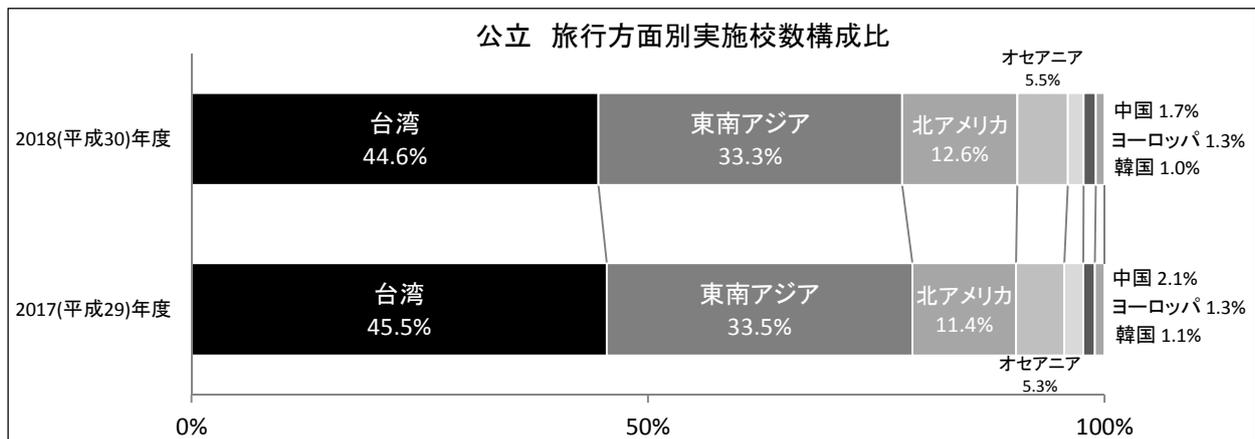
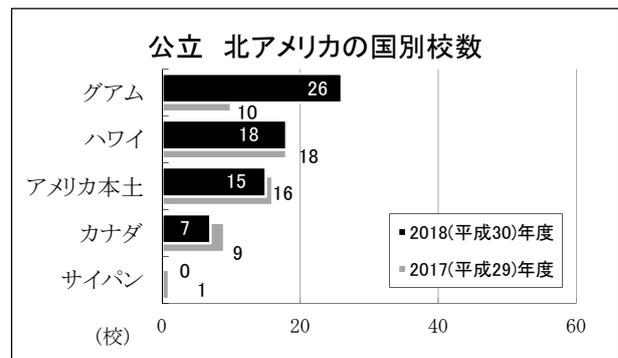
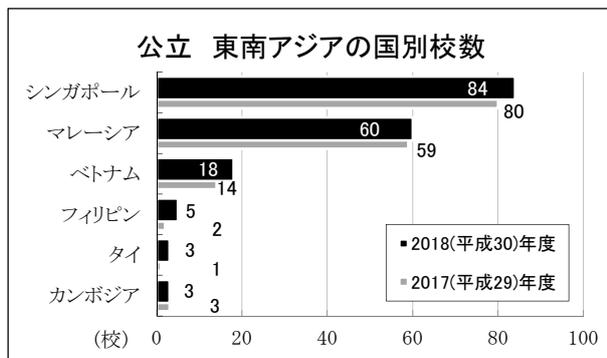
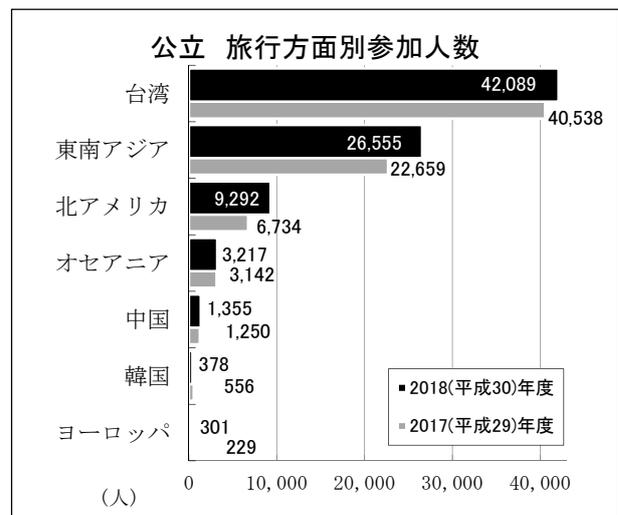
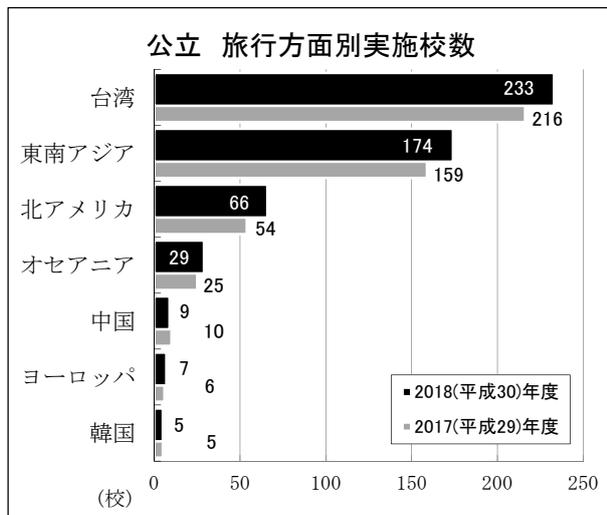


※グラフは延べ数を基に作成。

(3) 公私立別の状況

① 公立高等学校

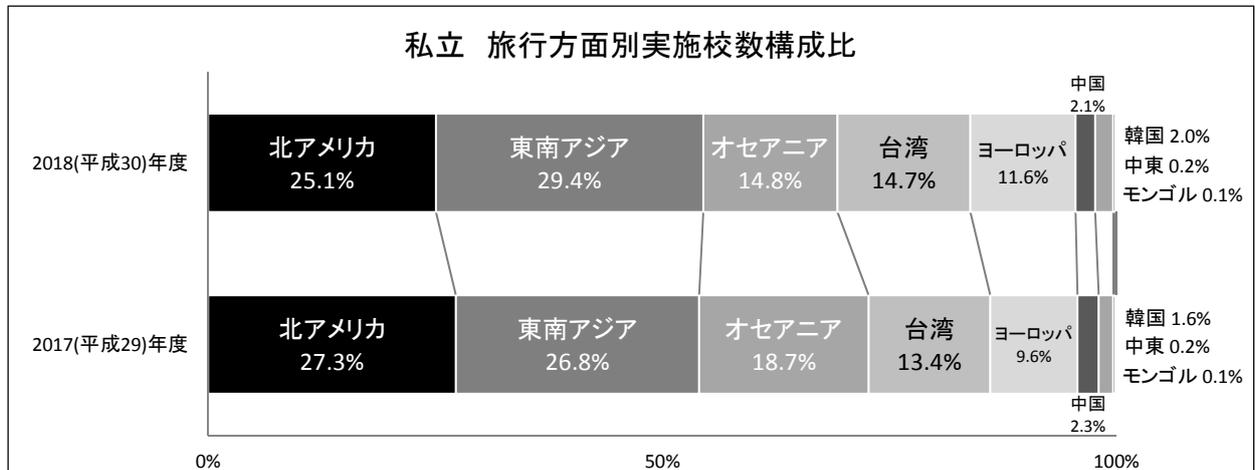
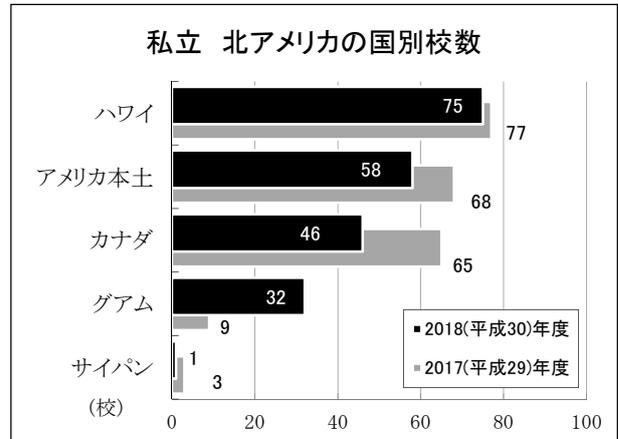
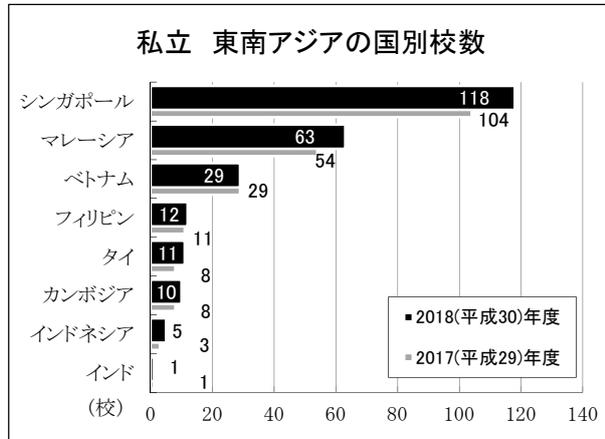
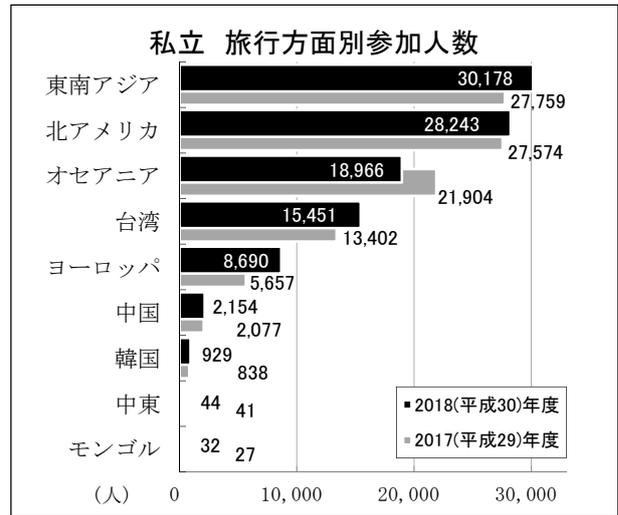
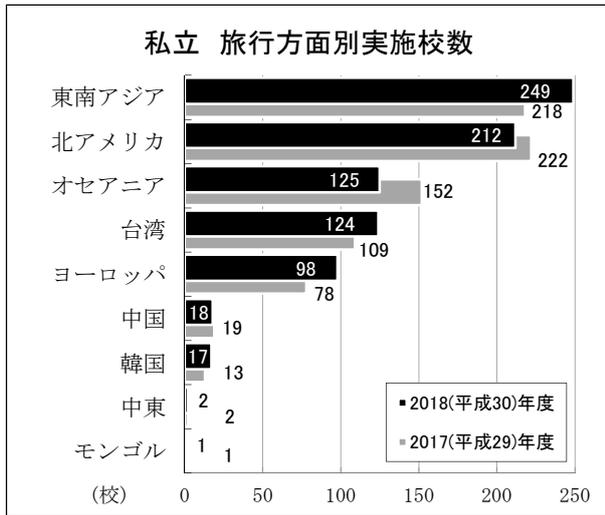
- 実施校は、440校が実施し75,052人が参加した。旅行実施件数は472件であった。前年度より、実施校数で50校、旅行実施件数で53件、参加生徒数で7,476人と全てにおいて上回った。
- 旅行先(延べ数)では、21ヶ国・地域に523校83,187人が訪問した。
今年度も台湾は、17校1,551人増加し、233校42,089人まで伸びた。公立校の主要訪問地である東南アジアでは、シンガポール、マレーシアに次いで、ベトナムも増えている。ベトナムへの修学旅行を実施した学校からは、経済成長著しい国から感じ取る学びや、ベトナム戦争に関する平和学習、学ぶことに旺盛な現地学生との交流など国際理解教育を学ぶ訪問国として高い評価の報告も上がっている。
全国の動向で記載した通り、前年度大幅減となったグアムは倍増以上に回復をした。(平成29年度：10校2,171人→今年度：26校5,095人)



※グラフは延べ数を基に作成。

② 私立高等学校

- 実施校数は522校93,829人が参加した。旅行実施件数は792件であり、前年度から校数で17校、件数で3件、参加生徒数で4,992人の増加となった。
- 旅行先(延べ数)では、40ヶ国・地域に846校104,687人が訪問した。10万人超えは初めてとなる。アメリカ本土、ハワイ、カナダは、減少したが、グアムの復調により、北アメリカとしては、前年を上回る参加人数となった。台湾、シンガポール(118校16,426人 前年度の過去最高を更新)の伸び、ヨーロッパの復調の一方、オーストラリア、ニュージーランドを中心としたオセアニアが減少した。(平成29年度：152校21,904人→今年度：125校18,966人)



※グラフは延べ数を基に作成。

(4) 公私立中学校の状況（参考）

中学校の海外修学旅行は、私立学校を主としており、公立学校は一部府県での実施が見られる。
参考資料として掲載した。

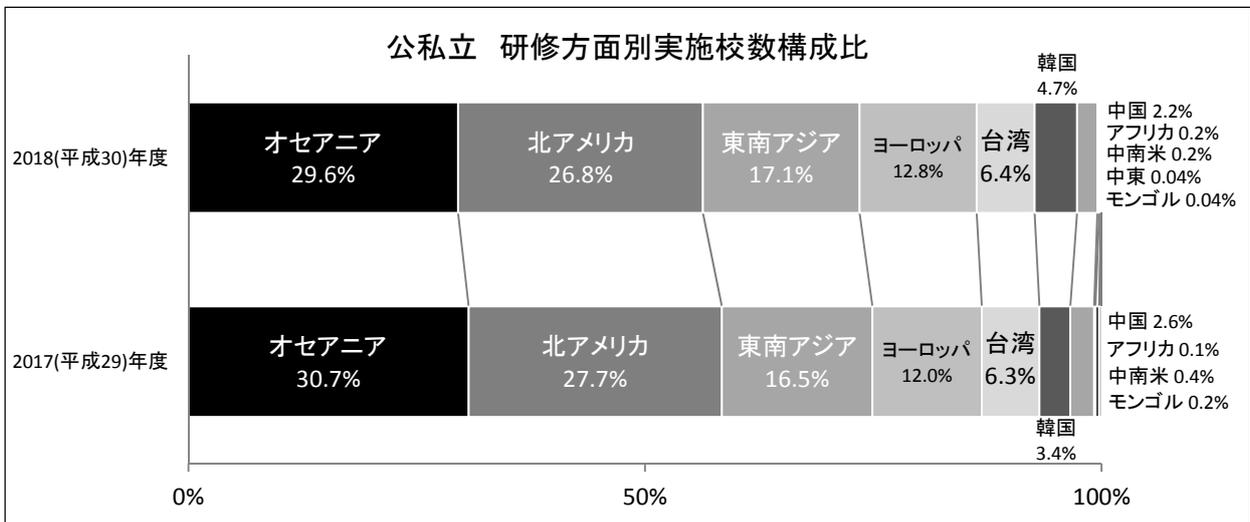
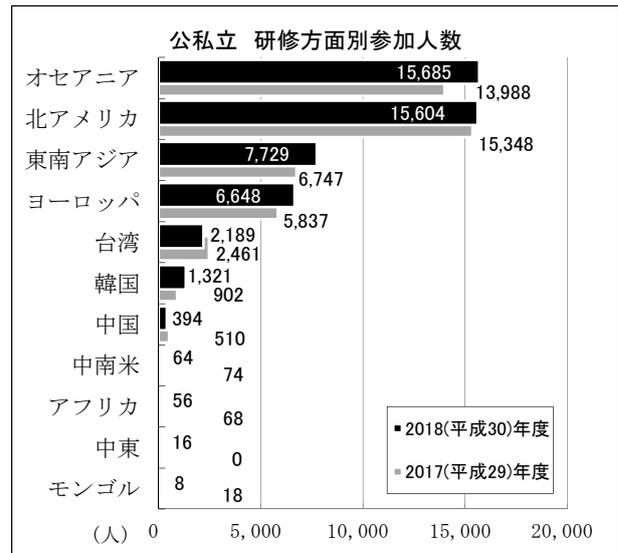
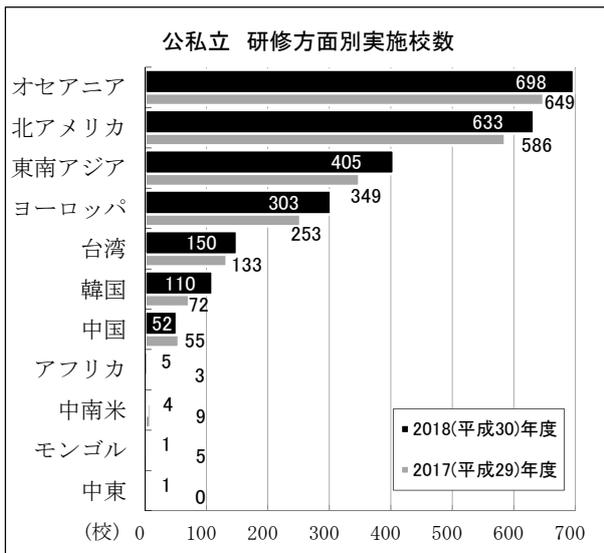
- 166校11,777人(公立16校1,181人、私立150校10,596人)の実施があった。
- 公立中学校は12都府県で実施され、前年度から微減であったが、参加生徒数は194人増。宮城、福島、静岡で複数校の実施がみられる。旅行方面は、オーストラリア(6校401人)が最も多く、実施時期は、秋(9月、11月)実施に加え、3月実施が多い結果となった。旅行日数は5日間から8日間の間が多かった。
- 私立中学校は38都道府県で実施され、前年度から、5校減となったが、参加生徒数は214人増となった。
オセアニア方面(56校4,335人)最多は変わらないが、今年度、シンガポール、マレーシアを中心に東南アジアが増えた。実施時期は、10月、3月が多く、旅行日数は、東南アジアの増加に伴い、5日間と7日間が多い。(前年度は、15日間以上が多かった)旅行費用は、20万円以上～30万円未満が多い。

2. 2018 (平成30) 年度 海外研修 (修学旅行外) の実施状況

- 実施校は、1,537校(公立837校、私立700校)が実施し、参加生徒数は47,477人(公立19,761人、私立27,716人)であった。件数は2,509件(公立1,140件、私立1,369件)を数える。
- 研修先(延べ数)では、60ヶ国・地域に2,362校49,714人(公立1,118校20,647人、私立1,244校29,067人)が参加した。
公私立共に、実施校数、件数、参加生徒数は、前年を上回った。国際理解教育を実践する手段として海外研修旅行に取り組む学校が増えていることがうかがえる。公立高校の修学旅行は、旅行先や日数、旅行費用等の規定を記した「修学旅行実施基準」に沿って実施することが定められているため、修学旅行は国内で実施し、参加希望制で海外研修を行う学校も多い。
- 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」が1,153校27,352人で実施総数の校数比44.5%、人数比55.0%と前年同様最も多い。学校間交流を通して、国際交流・理解に取り組む例も多く、「学校間交流」「国際交流・理解」を合わせ約3割の学校が実施している。

年度別実施状況

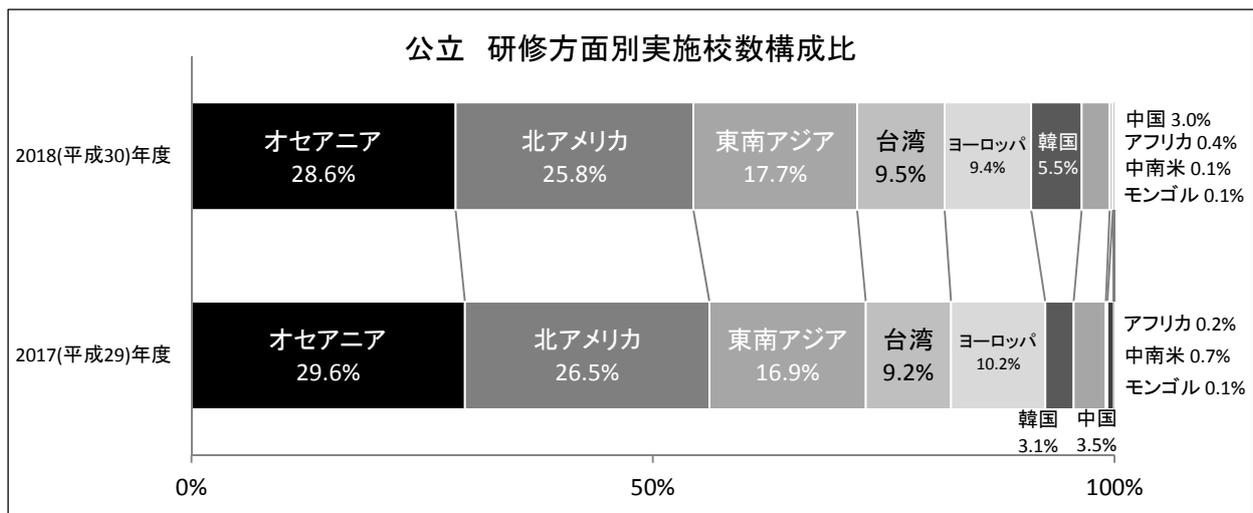
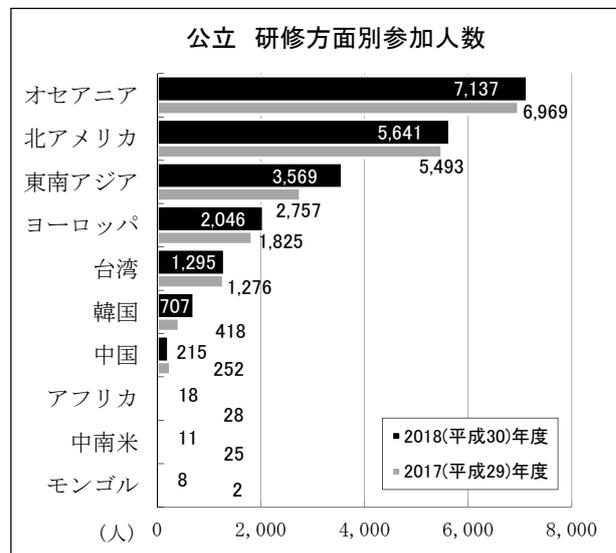
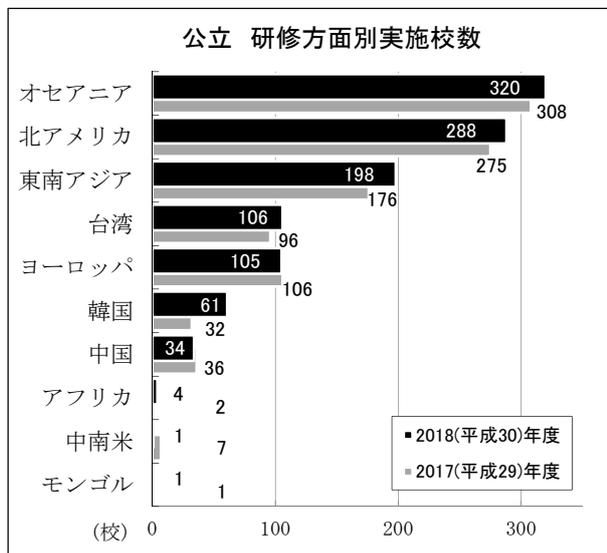
区分	計			公立			私立		
	実施校数	研修件数	参加生徒数	実施校数	研修件数	参加生徒数	実施校数	研修件数	参加生徒数
2016(平成28)年度	1,427	2,346	49,998	756	1,024	19,361	671	1,322	30,637
2017(平成29)年度	1,385	2,263	43,771	775	1,074	18,478	610	1,189	25,293
2018(平成30)年度	1,537	2,509	47,477	837	1,140	19,761	700	1,369	27,716



※グラフは延べ数を基に作成。

(1) 公立高等学校

- 実施校は、837校(件数は1,140件)が実施し、参加生徒数は19,761人であった。
- 研修先(延べ数)では、45ヶ国・地域に1,118校20,647人が参加した。
 研修方面ではオセアニア(320校7,137人)と、北アメリカ(288校5,641人)で過半数を占めている。
 主要国は、前年同様、オーストラリア(259校5,781人)と、アメリカ本土(206校4,062人)であり、
 ニュージーランド(58校1,353人)、台湾(106校1,295人)と続くが、今年度シンガポールが増え、
 東南アジアの構成比が2.8%増。オセアニアが2.0%減となった。
- 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」が355校8,689人(校数比30.2%、人数比42.1%)と最も多いが、構成比は、前年度から校数比で4.5%減。「学校間交流」と「学科の特性」がそれぞれ増となった。「学校間交流」は、現地学生との交流を通して異文化理解やコミュニケーション力を養うために効果的であり、グローバルな人材育成に繋がるカリキュラムである。
 今年度、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、SGH(スーパーグローバルハイスクール)に加え、SPH(スーパープロフェッショナルハイスクール)など新たな「学科の特性」に関わる研修も報告された。



※グラフは延べ数を基に作成。

(2) 私立高等学校

○ 実施校は、700校(件数は1,369件)が実施し、参加生徒数は27,716人であった。
 ○ 研修先(延べ数)では、48ヶ国・地域に1,244校29,067人が参加した。
 主要方面は、北アメリカ(345校9,963人)、オセアニア(378校8,548人)で変わらず。オーストラリアが、昨年度から24校1,470人増加しているが、修学旅行で、ほぼ同数の減少が見られる。昨年度、ヨーロッパの度重なるテロ等の影響もあり、大幅に減少したイギリスも復調の兆しで29校395人増となり、ヨーロッパ全体で51校590人の増加となった。
 研修内容は、「ホームステイ・語学研修」が798校18,663人(校数比56.4%、人数比64.2%)と過半数を占める。「留学・短期留学」を取り入れている学校も、98校688人と昨年度から24校63人増えた。オーストラリア、ニュージーランドへの留学が比較的多い。

